平成30年度·令和元年度 青森県助産師出向支援導入事業 実施報告



# CONTENTS

Ι.	青森県助産師出向支援導入事業実施の背景・・・・・2
Ⅱ.	青森県看護協会助産師出向支援事業 · · · · · · · · · · · · · · · · ·
Ⅲ.	平成30年度事業報告 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
IV.	令和元年度事業報告 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
V.	まとめ・今後にむけて ・・・・・・ 13

### はじめに

日頃より本事業にご協力いただき関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

さて、2025年、2040年問題を受け、地域医療構想の実現にむけて保健・医療・福祉の現場は選択と決断を迫られています。その現実に拍車をかけるように、働き方改革が推進されています。

今後病院はさらに集約化され、医療従事者不足の改善は期待が薄く、周産期医療の難し さは容易に想像がつきます。

看護職員需給見通しにおいても、助産師数の改善は厳しい状況にあります。

そのような中で、安心して産み、健やかに育てるためには、助産師の量と質の確保について継続的に検討し改善する必要があります。

既知の通り、本県の助産師の地域偏在や助産師実践能力の強化は、大きな課題であることから、平成27年度に助産師個人の意向調査を実施しました。平成29年度から令和元年度まで、各医療機関のご協力のもとに助産師確保が困難な地域への助産師出向が行われました。

意向調査では出向を希望しても、施設側で人員不足で出向は難しいなどの事情があり、助産師の地域偏在の緩和と育成について、一歩踏み出せない現場の事情が見えてきます。

そこで次年度は出向を短期間で行い、その内容については研修形式で行うこと等も視野 に入れて検討を進めています。

本県の周産期に係る課題は多岐にわたっていますが、青森県看護協会では、周産期医療の向上に向け、助産師活用の推進をはかるために、看護管理者との連携強化に努めています。看護管理者には、本県の周産期医療を守り高めるためには、地域や病院の枠を超えて検討するという視点に立って考えて頂きたいと考えます。

今、苦しいのは何処も同じであり、先を見越した周産期医療の体制づくりと助産師の育成のためにご理解とご尽力をお願いいたします。

出生率が低下し、助産師のスキルの確保が厳しい中で、令和の時代の妊産褥婦、そして 助産師の実践能力の向上のために、助産師活用推進事業を継続する意義は大きいと考えて います。そのために皆様のご意見・ご協力を賜り推進して参る所存です。

公益社団法人青森県看護協会 会 長 柾 谷 京 子

### Ι

### 青森県助産師出向支援導入事業実施の背景

#### 1. 青森県の看護職員従事者数の状況

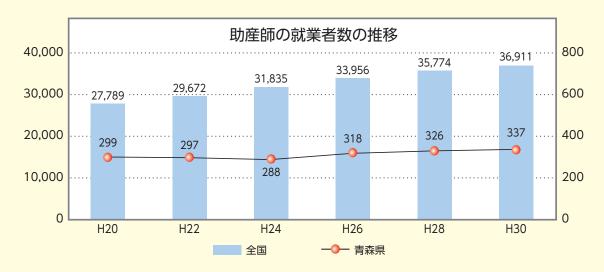
従事者数と人口10万人対平均

H30.12.31現在(出典:衛生行政報告例 厚労省)

	保健師	助産師	看護師	准看護師	合 計	
青森県	684	337	13,048	4,894	18,963	   従事者数実人員 
	54.2 第23位	26.7 第38位	1,033.1 第28位	387.5 第15位	1,501.5	人口10万人対
国	41.9	29.2	963.8	240.8	1,275.7	
差	12.3	△2.5	69.3	146.7	225.8	

H30 就労助産師数	H30 15~49歳 女性人口(単位:干人)	15~49歳 女性人口1,000対
337	222	1.5 → 全国28位

青森県内で就業している看護師等の数を人口10万人対で全国比較した場合、助産師は全国平均を下回っている。



- 2. 課 題: ①就業先及び地域における助産師の偏在の是正
  - ②助産師の助産実践能力の強化
  - ③助産師確保についての認知度
- 3. 方向性: 助産師出向システムの制度化

助産師養成の拡大

助産師確保に対する広報活動

このようなことから、助産師就業の偏在解消、助産師実践能力の強化及び助産学生等の実習施設確保等を図ることを目的とした青森県助産師出向支援導入事業を実施。

### Π

### 青森県看護協会助産師出向支援事業

- 1. 目 的: 本県における助産師就業の偏在解消、助産実践能力の強化
- 2. 支援及び調整:青森県助産師出向を円滑に実施するため、コーディネーターを2名設置

コーディネーターの所掌業務

- (1) 青森県助産師出向支援導入事業協議会(以下「協議会」という。) における役割
  - ① 協議会においては、他の構成員に対して、助産師出向に係る書類や報告書を作成し進捗について報告する。
  - ② 関係団体等に対する当該事業の説明や協力依頼、事業の広報について、公益社団法人青森県看護協会(以下「協会」という。)と連携して実施する。
- (2)出向開始前の主な役割
  - ① 施設への出向意向調査後に、出向の希望がある施設に施設内の目的、施設間の希望要件、出向助産師の出向目的、労働条件、処遇等について、情報収集と整理を行い、マッチングの成立に向けた調整を行う。
  - ② 出向元・出向先施設での、出向開始に向けた環境整備(マニュアル整備や教育体制など)と、出向助産師の支援を行う。
- (3) 出向期間中の主な役割
  - ① 定期的に出向助産師と面接を行い、出向中の経験や困っていることを共有し、必要時、施設間で課題を共有し解決に努める。
  - ② 出向元・出向先施設の看護管理者に出向助産師の情報提供を行い、両施設の看護管理者とともに、 支援体制の強化に努める。
- (4)事業に係る書類・報告書作成

出向に係る書類や報告書を作成し、県看護協会に報告する。様式は別に定める。

協議会の設置:事業実施及び検討等を行うために、協議会を設置

属

協議会委員 (H30年度)

氏 名

苫米地 怜	青森県医師会 常任理事
尾﨑 浩士	青森県立中央病院 総合周産期母子医療センター長
樋口 毅	弘前大学大学院 保健学研究科看護学領域教授
大村 倫子	青森県立保健大学 看護学科教授
藤井留美子	青森県立中央病院 看護部長
白濱奈々子	青森県助産師会 会長
柾谷 京子	青森県看護協会 会長
橋爪 直美	青森県看護協会助産師職能委員長
玉熊 和子	青森中央学院大学 看護学科 教授・コーディネーター

所

(H31年度)

氏 名	所 属
苫米地 怜	青森県医師会 常任理事
尾﨑 浩士	青森県立中央病院 総合周産期母子医療センター長
樋口 毅	弘前大学大学院 保健学研究科看護学領域教授
大村 倫子	青森県立保健大学 看護学科教授
藤井留美子	青森県立中央病院 看護部長
白濱奈々子	青森県助産師会 会長
柾谷 京子	青森県看護協会 会長
橋爪 直美	青森県看護協会助産師職能委員長・コーディネーター
福多彩子	青森県看護協会ナースセンター長・コーディネーター

経 過

福多彩子

●H27 助産師就業に関する実態調査実施

青森県看護協会ナースセンター長・コーディネーター

- ●H28 出向事業に向けた準備
- ●H29 出向モデル事業の実施
- ●H30~ 出向事業開始

### Ш

### 平成30年度事業報告

### 1. 出向状況 平成30年度・・・・平成30年4月1日~平成31年3月31日

項目	事例①	事 例 ②	事例③
出向元施設	十和田市立中央病院	弘前大学医学部附属病院	十和田市立中央病院
出向先施設	むつ総合病院	いちろうクリニック	八戸市立市民病院
実施期間	H30.4~9(6カ月)	H30.4~9(6カ月)	H30.10~31.3(6カ月)
目的	①助産師実践能力向上 ②マンパワー不足による応援	①研修	①研修

### 2. 出向実績と評価

### 事例① 十和田市立中央病院→むつ総合病院(出向期間6カ月)

項目	出 向 助 産 師(十和田市立中央病院)	
目標	分娩件数30件を目標とし、助産師の実践能力向上と、一職員として貢献できる。	
分娩介助件数	20件	
達成度	概ね達成できた。	
出向期間	1年くらいが適切	
<ul><li>・経験年数の短さや、ブランクがあったが感覚を取り戻すことができ、産科の現 出向した感想 知ることができた。</li><li>・助産師としての経験を積むことができ、全体としてモチベーションが上がる。</li></ul>		
今後の課題 出向期間延長や、短縮など出向期間の変更が可能であればいい。 業務マニュアルの配布時期(出向開始前に欲しい)		

項目	出 向 元 (十和田市立中央病院)	
出向期間	適切	
出向助産師へ の支援	1カ月に1回面談し、状況把握を行った。 連絡事項は師長を通して連絡をとりあった。	
出向した感想	産科を10年閉鎖していることによって、助産師のモチベーションが低下している。 出向助産師が周産期医療についての学びを深め、他の助産師に還元できるようになる ことを期待している。	
今後の課題	事業継続には助産師出向の代わりに看護師を出向させるなどの形も検討が必要ではないか。(看護体制の維持)	

項目	出 向 先 (むつ総合病院)	
出向期間	可能であれば1年	
出向助産師へ の支援	<ul><li>・新採用者と同時に当院、看護局についてのオリエンテーションを行った。</li><li>・宿舎の配慮</li><li>・病院行事へ積極的に参加してもらい、コミュニケーションを図った。</li></ul>	
出向した感想	<ul><li>・当院のマンパワーの確保ができ、安全・安心な出産環境が整備された。</li><li>・出向受け入れを機に部署のマニュアルや環境整備が促進でき、当院の助産師の成長にも繋がった。</li></ul>	
今後の課題	<ul><li>・出向時期に考慮(助産師学生受け入れの重なり)</li><li>・出向助産師のモチベーション維持</li><li>・家庭環境に合わせた対応</li><li>・クリニカルラダーの活用と推進</li></ul>	

### 事例①に係るコーディネーターの支援等

項	B	内容
支	援	応募を受け、双方の施設へ訪問・マッチング 看護部、出向助産師等との面談 事務方打合せ 施設見学、協定書の締結 出向開始後の定期訪問 報告会等への参加
評	価	出向先施設がモデル事業参加施設であった為、出向前の準備は概ね円滑に進行したが、出向助産師の処遇については調整が重要であった。 出向助産師に対しては、面談や課題解決に向けての対応が概ね実施できた。
課	題	出向前の目的の明確化。 出向助産師及び出向先施設に対する支援計画の立案

### 事例② 弘前大学医学部附属病院→いちろうクリニック(出向期間6カ月)

項目	出 向 助 産 師 (弘前大学医学部附属病院)		
目標	クリニックの役割や、大学病院との違いを理解する。 分娩介助技術を学ぶ		
分娩介助件数	29件		
達成度	概ね達成できた。		
出 向 期 間 適切			
・他の助産師の分娩介助を学ぶことができる。 出向した感想 ・大学病院では経験できないことができた。			
今後の課題	出向先の施設の環境や、ケアの仕方など予め確認し、出向に適した助産師を選択する 必要がある。		

項目	出 向 元 (弘前大学医学部附属病院)
出向期間	適切
出向助産師へ の支援	出向開始時から定期的な面談
出向した感想	助産師としての判断、助産技術の向上。 出向助産師の成長につながった。
今後の課題	施設間の違いをすり合わせる時間が不足。 調整時間は多い方がいい。

項目	出 向 先(いちろうクリニック)
出向期間	できれば1年が望ましい。
出向助産師へ の支援	助産技術指導、面談、待機場所(個室)の提供等
出向した感想	出向助産師のスキルアップ 指導することにより見直すきっかけとなった。
今後の課題	事業の継続

#### 事例②に係るコーディネーターの支援等

項	目	内容
支	援	双方の施設訪問、マッチング 出向助産師面談 出向助産師と出向先施設との面談、見学 協定書 出向助産師定期訪問、面談、フォロー 出向先、出向元等への報告
評	価	労働環境や生活に慣れることに労力を要し、不安も大きかったため、開始当初は1~2 週間に一度は訪問した。また、出向先の管理者とも面談し、支援を行っていった。 中間報告では環境にも慣れてきた様子で、月1回の面談に切り替え、支援を続けた。 出向の成果はあったものの、課題も残った。
課	題	初めて出向に参加する施設に関しては、十分な調整期間を持つことが必要であり、不 安を少しでも抱えたままで出向開始にならないように、対応する。 客観的に評価できるような基準が必要。

### 事例③ 十和田市立中央病院→八戸市立市民病院(出向期間6カ月)

項目	出 向 助 産 師 (十和田市立中央病院)
目標	助産実践能力の強化 分娩件数20件以上
分娩介助件数	12件
達成度	概ね達成できた。
出向期間適切	
出向した感想 10年ぶりに産科業務を体験し、自分の実力が分かった。	
今後の課題 潜在助産師の活躍の場がもっと広がればいい。	

項目	出 向 元 (十和田市立中央病院)
出向期間	適切
出向助産師へ の支援	1カ月に1回面談し、状況把握を行った。 連絡事項は師長を通して連絡をとりあった。
出向した感想	出向助産師が周産期医療についての学びを深め、他の助産師に還元できるようになること。
今後の課題	事業継続には助産師出向の代わりに看護師を出向させるなどの形も検討が必要ではないか。(看護体制の維持)

項目	出 向 先 (八戸市立市民病院)
出向期間	適切
出向助産師へ の支援	<ul><li>主任助産師を出向担当に決め対応</li><li>面接で状況を確認し、業務内容の周知状況や施設への適応を考え勤務スケジュールを作成し、目標達成に向け勤務調整に努めた</li><li>交流促進</li></ul>
出向した感想	<ul><li>・部署のマニュアル、環境等の整備促進</li><li>・出向助産師へのかかわりをとおした、出向先施設の助産師の成長</li><li>・助産師のケアにかかわる情報共有や連携上の課題把握</li></ul>
今後の課題	<ul><li>電子カルテ操作や看護診断にかかわるオリエンテーション</li><li>出向期間中の目標達成に向けた具体的な支援計画の立案と評価</li><li>評価指針の検討</li><li>交換留学の要素を盛り込んだ研修や指導目的の出向</li></ul>

#### 事例③に係るコーディネーターの支援等

項	B	内容
支	援	双方の施設訪問、マッチング 出向助産師面談 出向助産師と出向先施設との面談、見学 協定書 出向助産師定期訪問、面談 出向先、出向元等への報告
評	価	評価指針が、明確でない為、出向先施設の評価段階で混乱があり、説明が必要であったが、出向助産師とは定期的に面談を行い、状況にあわせた支援ができた。
課	題	出向助産師が目的・目標を達成し、より有意義な出向とするためには、事前に出向先施設の管理者を交えて、より具体的な実践レベルまでの協議をしておくことが必要である。 また、評価項目や、評価指針の具体的なものは必要。

#### 3. 協議会開催(年2回)

第1回 開催日時:平成30年10月4日(木) 15:00~

議 案:1) 平成30年度青森県助産師出向支援導入事業の経過

2) 平成31年度青森県助産師出向支援導入事業について

第2回 開催日時:平成31年2月14日(木) 15:00~

議 案:1)平成30年度青森県助産師出向支援導入事業報告

2) 平成31年度青森県助産師出向支援導入事業について

3)評価について

#### 4. 第33回日本助産学会へ演題登録・ポスター発表

開催日:2019年3月3日

演題名:助産師コーディネーターによる出向支援の振り返りと今後の課題

#### 平成30年度事業の評価

出向事業は、出向先、出向元両者の目的が合致しないと進めていくのは難しい。

しかし、どこかで折り合いをつけられる点を見いだせれば、事業を推進できると考える。

その為には、出向に伴う助産師等への手当等の確保や出向の人的な不足を人事交換等でカバーする工夫が 必要である。

# IV 令和元年度事業報告

### 1. 出向状況

項 目	事例
出向元施設	青森県立中央病院
出向先施設	むつ総合病院
実施期間	令和元年8月~10月(3カ月)
目 的	マンパワー不足による応援

### 2. 出向実績と評価

#### 事例 青森県立中央病院→むつ総合病院(出向期間3カ月)

項目	出 向 助 産 師(青森県立中央病院)	
目標	応援	
分娩介助件数	7件	
達成度	達成できた。	
出向期間	適切	
出向した感想	<ul><li>・日勤のみの勤務だったので、体調が良い。</li><li>・自施設に比べて患者の人数が少なくゆっくり、じっくり関わることができた。</li><li>・施設によって違う点がわかり、気付きになったし、逆に改善案を提供できた。</li></ul>	
<ul> <li>賃貸の場合住居手当が出ず、給料が減る。</li> <li>夜勤、超過勤務手当の減。</li> <li>常に側に助産師が居るわけではないので、出向する助産師は自ら学べる中堅以上の助産師でないと心身ともに辛いのではないか。</li> </ul>		

項目	出 向 元(青森県立中央病院)
出向期間	適切
出向助産師へ の支援	月1回の面談 身体的・精神面での状況把握
今後の課題	<ul><li>・出向助産師はある程度経験があり自己判断できる人が望ましい。</li><li>・一方的な出向ではなく、助産師・看護師を含めて人事交流することもいいのでは。</li><li>・メリットだけではなく、自分にとって多少のデメリットがあっても地域を支援する姿勢も大切。</li></ul>

項目	出 向 先 (むつ総合病院)
出向期間	期間が短かった(6カ月~1年間が適切)
出向助産師へ の支援	・生活環境整備のための他部門との調整・交渉     ・本人への声掛け、所属担当次長へのアドバイス     ・病棟勤務調整
今後の課題	• 事業拡大

### 事例に係るコーディネーターの支援等

項目	内容
支 援	<ul> <li>【出向開始前】</li> <li>・出向元 5月8日:出向助産師と初顔合わせ、プロフィール等情報収集、むつ総合病院の概要説明。</li> <li>5月30日:日程調整、出向先のマニュアル等説明、事務担当者へ挨拶。</li> <li>・出向先 5月20日:マッチングに向けた打ち合わせ、病院内・病棟の現状等について概要最終確認。</li> <li>・出向先 6月12日:出向助産師と共にむつ総合病院及び宿舎を見学。担当師長からオリエンテーションを受け、業務内容を確認。</li> <li>・三者打ち合わせ 7月3日:業務に関する事項、服務規程、生活面、年休取得、健康診断等事前チェックリストにて確認。</li> </ul>
	【出向開始後】 ・出向先訪問:面談(助産師、看護部長、看護師長)、評価、まとめ 8月9日:開始1週間後 9月25日:出向約2か月 8月27日:出向約1か月 10月21日:出向約3か月
評 価	【出向前】 ・出向先が受入れ3年目であり、出向元もモデル事業を入れて今回が2回目ということで、マッチングはスムーズに行われた。 ・出向元・出向先施設で組織内合意が得られ、双方の出向目的が応援出向であることを明確にした。
	【出向1週間】 ・早期に業務内容上困った点や日常生活上の改善点について把握し、調整する機会となった。貸与されたユニフォームの枚数ではクリーニングが間に合わないこと、宿舎の排水口のつまりの件等を改善することができた。しかし、事前確認が出来ず不便をかけたため、今後の課題とする。
	<ul> <li>【出向1か月】</li> <li>・出向先の環境・業務やシステムの違いにも慣れ、心身ともに問題はなく順調に経過した。</li> <li>・産科医師やスタッフとのコミュニケーションも良好で、業務上での気づきや見直しが必要な事項等も、助産師が直接出向先へ提言できるようになった。出向先では指摘に基づき改善に動いている。</li> <li>・コーディネーターによる調整が必要な事項は特になかった。</li> </ul>
	【出向2か月】 ・応援という組織の目的の中で、助産師個人としての目標を明確にできるよう助言した。

項	B	コーディネーター
評	価	・業務調整等を行いながら、出向目的である応援、かつ出向助産師の目標である他施設の産科病棟を学び、これまで経験したことのない子宮頸管縫縮術など積極的に学びたいという目標が達成できた。
		【出向3か月】  • 出向助産師の経験項目を増やすことができ、知識や技術の向上という大きな目的は達成された。また、出向先の現状を知り、出向先のマニュアルの見直し等、後に続く出向希望者の環境整備や業務内容を考える機会となった。
		<ul> <li>【最終評価】</li> <li>出向開始後、月1回の定期的な面談の場を設け、毎回活発な意見交換をすることで双方の情報を共有することができた。</li> <li>出向先や出向元のサポートもあって助産師の心身の健康は維持され、トラブルや大きく調整を必要とする事項もなく終了できた。コーディネーターとしての支援も適切であったと考える。</li> </ul>
課	題	【出向元の人員減少】 トレード、人事交流という意見が出向先からも聞かれている。
		【出向先の指導体制】 出向助産師としては、初めての手術、分娩等、病院によって違う部分が多々あるので、マンツーマンで説明してほしかったが、人員不足でついてくれる状況ではなかった。
		【業務内容事前検討】 前年度の評価を受け出向前の資料及び情報提供、事前オリエンテーションを実施したが、カバーしきれなかった事項等は次回に活かしたい。 電子カルテや実際の動きなど、OJTでなければ習得できないものもあり、習得期間を見込んだ業務の組み立て等を支援していく必要がある。
		【出向期間の検討】 3か月という期間では、人的・物的環境に慣れ自立して主体的に出来るようになったら出向期間が終了してしまうという状況。(今回、看護職31年(助産師歴27年)というベテラン助産師の出向だったので、一般病棟の対応、基本看護、助産過程、実習指導等即戦力として出向先から高い評価を得ている。)
		【助産師のモチベーションの維持・向上】 出向における精神的・身体的負担は大きく、出向元・出向先における精神的支援、 出向後の助産師の活用等のサポートも重要である。
		【出向事業予算的助成】 本来の出向事業において、勤務形態等から出向助産師の給与が下がることが回避できないケースが多い。しかし、出向施設や出向助産師が処遇等で不利益を受けずに身分が保障されることが、助産師出向を継続していく上では不可欠である。県行政へ基金などの活用および助成(出向手当等)をお願いしたい。
		【出向事業の広報】 県内の周産期事情をもとに出向事業について理解を得るとともに、関係機関(者) への事前説明を行い協力体制を整える必要がある。出向元施設の師長等看護管理者 が助産師出向支援に果たす役割は大きいと考える。周産期医療、地域医療への貢献 のためにも関係者・関係団体間の協力と連携が大切である。

#### 3. 協議会開催(年3回)

第1回 開催日時:令和元年7月4日(木) 14:00~16:00

議 案:1)2018年度出向事業の最終報告

2) コーディネーターの評価指標について

3) 2019年度青森県助産師活用推進事業について

4) 2020年度青森県助産師活用推進事業について

第2回 開催日時:令和元年10月17日(木) 14:00~16:00

議 案:1)2019年度青森県助産師出向事業進捗状況

2) 青森県助産師活用事業の方向性について

第3回 開催日時: 令和2年2月6日(木) 14:00~16:00

議 案:1)令和元年度事業報告

2) 令和 2 年度助産師活用推進事業計画(案)

#### 4. 青森県の助産師活用推進を考えるフォーラムの開催





目 的: 青森県の将来的な産科医療体制を見据えて院内助産について意見交換する場とする。

参集範囲:会員施設及び分娩取扱い施設の看護職・医師・事務職等

開催日時:2019年5月16日(木) 13:00~16:30

開催場所:ラ・プラス青い森2階メープル

参加者数:41名

プログラム: 〇開会あいさつ

○平成30年度青森県助産師出向支援導入事業の報告

出 向 元 弘前大学医学部附属病院

十和田市立中央病院

出 向 先 むつ総合病院

出向助産師 十和田市立中央病院

助産師コーディネーター

○講演「助産師出向からつなぐ院内助産」

講師:日本看護協会神戸研修センター

教育研修部継続教育課長 早 川 ひと美氏



#### ○意見交換

座 長:青森県立保健大学看護学科教授 大村倫子氏

話題提供: 八戸市立市民病院周産期センター 所長 田 中 創 太氏

青森県立中央病院 看護師長 加賀谷 智 美氏

青森県健康福祉部医療薬務課 課長 若松伸 一氏

#### 令和元年度事業評価

今年度の出向事業は、これまでにも出向事業を行った施設同士であったため、事前の三者間の打ち合わせから、特に課題となるような問題もなく、滞りなく事業を進めることができた。

しかし、出向元・出向先施設がともに同じであったとしても、出向助産師や出向元・出向先施設の環境は必ずしも全く同じではないので、事前の打ち合わせ、両者の話し合い、ニーズや目的の確認等を怠ることなく、事業をコーディネートしていくことは必要不可欠である。助産師出向コーディネーターには、事業開始前から事業終了後まで、詳細な部分を丁寧に聞き取り、様々な配慮をしながら、マッチングしていただいた。助産師出向は出向元・出向先の調整さらには、両者をとりもつ助産師出向コーディネーターの役割発揮が大切であり、このように今年度も引き続き助産師出向事業を継続して行えたことは協会としても評価できる点であった。

## V まとめ・今後にむけて

当事業を数年間実施してきているが、助産師の偏在が是正されたかという点に関しては、現状は変化は見られない。しかし、助産師間では、出向事業の認知度は少しずつ高まり、学びたい意欲が高ければ他施設に行って現場をみることができるという認識は広まりつつある。長期間での出向となれば、職場環境や家庭環境等考慮しなければならない要素が多いが、研修という名目の短期間での出向となれば、是非行ってみたいと思う助産師が増えてくることが期待される。そういう助産師が増えると、県全体の助産師のスキルアップにもつながり、青森県の周産期現場にも波及効果が期待できる。

短期間での出向でも、県内のあちらこちらで同時に事業が展開し、県全体に活気が出ることが望ましい。研修に数日間行ってみたい希望はあるが、施設側の理解が得られないという話も聞こえてくる。協会としては、当事業をより有効的にすすめるために、医療機関はじめ、助産師個人にも出向事業参加を積極的に呼びかけていくこととしている。同時に、施設側としても出向に出しやすい、出してもよい体制づくりを共に考え、作り上げていくように今後も施設の看護管理者との情報共有を図り、県と連携し、事業を推進していきたい。



看護の力で健康な社会を!

